



# いわて・みやぎ・ふくしま No. 6 - 便り

2019年  
9月30日発行

日本生協連  
組合員活動部

9月の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から8年半が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。



## 陸前高田市サンビレッジふれあいサロン



いわて生協の「ふれあいサロン」は、2011年6月にスタートしました。一番多い時には月に79会場で開催していましたが、10月からは2会場だけとなりました。岩手県内の応急仮設住宅の入居者も8月末で1002人となりました。

今回は、2011年9月から開催し現在も続けている、陸前高田市の「サンビレッジ会場」の様子をお伝えします。この会場の担当ボランティアは一関市の組合員。毎回バスで1時間半ほどかけて陸前高田市へやってきます。

サンビレッジは陸前高田市の公共施設で、震災当時は避難所として使われ、その後は敷地内に仮設住宅が建てられました。このサンビレッジの一室をお借りして、「ふれあいサロン」を行っています。周辺に小さな仮設団地が多くありますが、小さな団地には集会所がありません。多いときは30名を超える参加者がありましたが、震災から8年半が経過し、災害公営住宅や自力再建された家に移られた方も多く、今は参加者も減ってきています。しかし、健康体操や物づくり、お茶飲みを楽しみに「ふれあいサロン」を心待ちにしている方もたくさんいらっしゃいます。

「ふれあいサロン」開催にあたり、全国の生協のみなさまからはお菓子やお飲み物のご支援をたくさんいただきました。改めて御礼申し上げます。



みなさんお茶を飲みながら、お話や手芸を楽しんでいます。ボランティアも長い間携わっている方が多いので、すっかり打ち解けています。



この日の手芸は貝殻のキーホルダー作り。布や紐は組合員のボランティアが「サロン用キット」として作成してくれたものを活用しています。



最後はみなさんで踊って身体を動かしました



## 被災地訪問に取り組んでいます



みやぎ生協では、復興の進捗状況や当時の様子を自身の目で確かめ、支援や防災につなげるため、沿岸部などを訪問する企画を継続して行っています。

8月末～9月にかけて、5理事エリアでそれぞれ計画して、気仙沼市や仙台市、名取市、岩沼市などの沿岸部を訪れました。

参加者からは「当時の様子や復興状況など、知らないことがたくさんあることに気づかされた」「復興がすすまないもどかしさを感じることもあるが、人々の着実な働きが積み重ねられていることに感動した」などの声が寄せられました。宮城県に住んでいながら訪れることができず今回初めて沿岸部を訪れたという方もいて、訪問企画の大切さを改めて感じたという企画側からの声もありました。

今回訪問した際の様子は、それぞれのエリアで開催されるこ～ぷ委員会や秋のこ～ぷのつどいなどで、多くの人に伝えていきます。



気仙沼大島と本土をつなぐ期待の橋として、今年4月に開通した大島大橋を歩いて渡りました。これまでは航路しかなく、震災時は、津波と火災で島は孤立しました。



震災遺構・仙台市荒浜小学校近くに新たに公開された、震災遺構・仙台市荒浜地区住宅基礎の視察も行いました。



## 体験型の親子・防災ワークショップを開催しました



9月7日、子どもたちにも震災を伝え、防災・減災に役立ててもらおうと、現地集合・体験型の企画を初めて実施し、親子15組40名（子ども25名、大人15名）が参加しました。

仙台市若林区の沿岸にある「海岸公園冒険広場」は、震災当時、周辺が津波に覆われる中、数少ない高台のひとつとなり、職員などが避難・救出された場所です。

この海岸公園冒険広場にご協力をいただき、「親子・防災ワークショップ～ひみつきちをつくろう！」と題して、簡易テントづくりや、火おこし体験、ポリ袋での炊飯体験を行いました。参加者からは「実際に体験できて、いろいろな工夫ができることを発見できた。家でもやってみたい」などの声が寄せられました。



身近にあるものを使って工夫する事例として、物干しざおと、段ボールやブルーシートを使った簡易テントづくりに挑戦しました。

また、オプション企画として参加を声かけた、震災遺構・仙台市荒浜小学校視察にも約半数が参加し、子どもたちに当時の様子を伝えることができました。



## 小学校で、ローリングストックを学ぶ授業を行いました



みやぎ生協では、くらしの中に備える習慣を取り入れてもらえるよう、ローリングストックを広める取り組みをすすめています。

9月10日、みやぎ生協本部近くにある仙台市立八乙女小学校から依頼を受け、小学3年生を対象にローリングストックを学んでもらう授業を行い、81人が参加しました。

3年生にもわかりやすいよう、学校の先生からアドバイスを受けて作成した資料を使って学習した後、ストックしながらふだんにも使える「COOP 乾燥ごぼう」を水で戻し、マヨネーズと胡麻ドレッシングで和えるサラダを、給食の時間に自分たちで作って試食してもらいました。

子どもたちからは、「災害は悲しいけど、楽しく学べてよかった」「初めて知ったけど、1日分食べて1日分買い足して、ずっと同じ量を置いておくのがすごい」などの感想が寄せられ、しっかりと理解してもらうことができました。



真剣な表情でお話を聞いてくれました。



グループごとの代表者が、乾燥ごぼうに水を入れる作業をその場で行いました。



## 『FUCCO 秋冬セレクション』を発行



とうほくてしごとカタログ FUCCO の掲載商品の中から、おすすめ秋冬商品や人気商品を厳選した、A3 二つ折りサイズのチラシ『FUCCO 秋冬セレクション』を発行しました。1~500 部程度まで費用負担なしでお送りできますので、配布をご希望の際は下記にご連絡ください。

【連絡先】みやぎ生協ボランティアセンター

TEL : 022-347-3826 E-mail : sn.mwith3@todock.coop

みやぎ生協のホームページでも公開しており、PDF データでのダウンロードも可能です。

<https://www.miyagi.coop/support/shien/handmade/>

多くの皆様への配布にご協力をお願いいたします。





## コープおおいたのみなさんが被災地を訪問



8月20日から22日に、コープおおいたのみなさん19人（子どもさん3人を含む）が「ふくしま訪問視察交流企画」として、福島市、新地町、飯舘村を訪問しました。

8月20日、福島駅に到着した皆さんはバスで新地町へ。ふくしまっ子応援プロジェクトで交流のある新地町の小学生らと再会。二日目は浜通りの被災地を視察して、その後飯舘村に移動し、帰村した皆さんとの交流会を行いました。この日、飯舘村からは15人が参加。おしゃべりしたり、自慢ののどを披露したりと、楽しいひと時になりました。三日目は福島市内の桃畑を訪れ、桃の収穫を体験。採りたての硬くて甘い桃を味わっていただきました。

コープおおいたさんの福島訪問は、震災直後の2011年8月に始まりました。桑折町の桃畑に足を運んでいただき、たくさんの贈答用桃の注文をいただきました。また、道路の整備も進まない相馬市、新地町の海岸沿いも見させていただきました。毎年、年に2回の福島訪問が続き、その中で福島市内の飯舘村松川工業団地第2仮設住宅との交流も続いてきました。飯舘村は、2019年3月に避難指示が解除され、仮設住宅に暮らしていた多くのみなさんは村に帰りましたが、交流は続き、今回は飯舘村での交流会となりました。



採りたての桃は、硬くて甘いです



コープおおいたのみなさんとの集合写真



## こども保養プロジェクト（コヨット！）活動報告

### ～ほっこりママ会地産地消親子料理教室～



開催日 2019/8/7（水）

会場 福島市 AOZ 調理実習室

参加者 福島市6家族、二本松市1家族、郡山市1家族

計子ども11名、保護者8名

講師 本田よう一先生、助手 嶋原千都



参加者の集合写真

夏休み恒例企画となった「地産地消親子料理教室」を開催しました。今回はタウン情報誌でも案内をしたため応募多数となり、抽選で選ばれた8家族が参加しました。福島市での開催にも関わらず、二本松市や郡山市からの参加がありました。

## 1.料理教室（10：00～13：00）

今回のメニューは、「チーズハンバーガー」「カラフルコロコロサラダ」「トマトのオニオンスープ」の3品です。子どもが作りやすく、難しい切り方や下ごしらえのないレシピで、福島の野菜をたっぷり使いました。ハンバーガーのパンズは、会場1階のカフェ・ベーカリーショップに用意して頂きました。



調理について説明を受ける参加者

初めに本田先生が実際に食材をカットして、調理する様子を見学しました。調理の手順、野菜の切り方、味付けのポイントなどが適時アドバイスされ、とても参考になります。

デモが終わるといよいよ本番。4グループに分かれ、一人1個のハンバーガーとおかず作りに取りかかりました。初めて会う人たちと美味しく作るだけでなく、楽しく作れるのが本田先生の料理教室の良いところです。すべてのグループが、予定の12時までに完成することが出来ました。

家庭では忙しく、なかなか親子で料理する機会がありません。今回お母さんと一緒に作った料理は、よりおいしく感じ、普段はあまり野菜を食べない子がたくさん食べてくれ、大満足の昼食となりました！

コヨットでは、お母さんを対象に福島県産品の安全性を理解していただくため、地産地消を推進しながらの料理教室を継続的に実施しています。お母さんの中には、「未だに県産品が安心であるか不安です」と話す方もいます。そのため、県産品の安全性を勉強しながら、料理教室に参加してもらうことで、心の安心を補ってもらうことを目指しています。

これまでに、この様な料理教室を10回開催してきました。料理教室への参加をきっかけに、福島県産品の購入を控えていたお母さんたちが、その安全性を理解し、再び購入を始めているそうです。コヨットでは、これからも継続して開催していきたいと思えます。



楽しくお料理をいただきました

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部  
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

